

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【めざす学校像】

- 時代を切り拓く「生きる力」、地球規模で物事を考え、自分の考えを発信し、国際社会や地域社会において活躍・貢献できる骨太な人材を育む学校。
- 人間の尊厳について深く理解し、豊かな人権感覚をもつ知・徳・体バランスのとれた人を育む学校。

【育てたい生徒像】

- 高い志、主体的かつ真摯に努力し続ける力をもつ生徒。
- 基礎的な知識及び技能と、これらを活用し課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力をもつ生徒。
- 批判的に考える力、説明し議論する力、豊かな人間関係を構築できる力、高い市民性・創造性をもつ生徒。
- 高度で専門的な学びを深化させる意欲と、そのための基礎的知識・スキル、生涯にわたる探究心をもつ生徒。

2 中期的目標

1 学びの切磋琢磨

(1) 両学科の指導方法を活用し、全ての生徒が文系・理系両方の基礎学力を着実に身につけるよう指導する。

ア 全ての生徒の学力の底上げを図る。

教材・資料、基本となる指導方法について、教科において統一・共有化を進める。

双方向的学習に努め、実験・実習等を多く取り入れるとともに、ICT・VOD・視聴覚機器を積極的に活用する。

イ 生徒が自学自習の習慣を身につけるとともに、その効率と効果を高めていけるよう指導方法を工夫改善する。

宿題や課題の質を高める。また、タブレット端末を利用し学べるコンテンツの研究開発を行う。

(2) 専門分野における探究力を高めるとともに、グローバル人材に求められる言語活用力やプレゼンテーション能力・語学力を両学科とも向上させる。

ア 専門分野における探究力を高める。

課題についての気づき・調査分析・まとめ・効果的な発表にいたる教材・資料と指導プログラムの研究開発を行い、実践する。

両学科ともに、研究者・企業関係者等との連携を進め、適宜、評価・助言を受ける。

イ 全ての教科指導のレベルの底上げを図る。

双方向的学習、実験・実習、ICT・VOD・視聴覚機器の活用に取り組む。

学校全体として授業研究を進めるとともに、他校のすぐれた実践例の研究や公開授業等を行う。

ウ 両学科とも言語活用力やプレゼンテーション能力・語学力を向上させる。

校内外研修、語学研修、国際教育、国際交流等に積極的に取り組む。

両学科とも、論文をはじめとする様々な形態のプレゼンテーションを行う機会を増やし、その質を高めるよう取り組む。

2 高い志、豊かな感性、互いを尊重する精神を養うとともに、たくましく生きるための健康と体力を育む。

ア 高い目標を掲げ取り組むとともに、相互に協力・努力することの大切さについて学べるよう指導する。

普段の授業、ホームルーム、生徒会やクラブ等の自主活動、行事等において、また、探究力育成の指導等、全ての活動において取り組む。

イ 違いを認め共に生きる力、紛争を解決する力を向上させるとともに、自分と人びとを大切に思い、社会に役立つとする気もちを育む。

特に、ホームルーム指導や人権学習において計画的に指導するとともに、生徒の気持ちやようすを的確に把握し、指導方法の工夫改善に努める。

各界専門家や社会貢献に取り組む人々による講演や交流、卒業生との連携協力を強める。

ICT機器・情報端末等を正しく活用できるよう、計画的に指導する。

3 全ての生徒がそれぞれの進路希望を実現できるよう取り組む。

(1) 3年間を見通した総合的な指導計画（学習指導・進路指導・生活指導等）を策定し、教職員・保護者・生徒で共有し、それをもとに指導・支援する。

ア 生徒の学力の状況や、学校生活・進路・人権等に係る意識等について適宜的確に把握し、指導・支援の工夫改善を行う。

イ 土曜日の補習・講習等を計画的に、また、生徒のニーズにあうよう実施する。学校全体としてそれを有効に活用できるよう校内体制を整備する。

(2) 知・徳・体のバランスの良い生徒を育てる。

ア 部活動と勉強を両立させるよう計画的に指導を行う。また、そのための教職員間の連携協力を強める。

イ すべての学校生活において、生徒が連帯感・達成感を体得できるよう指導・支援するとともに、成果について評価・顕彰する。

ウ 学校全体として、特に時間管理、挨拶の励行、整理整頓の指導にしっかりと取り組み、生徒が自己管理能力を高めるよう取り組む。

4 教員の指導力の不断の向上に努める。

ア 学習、進路、生活あらゆる面における指導方法について質を高め、工夫改善を推進できるよう学年・分掌・教科間連携を強め、校内体制を整備する。

イ 生徒情報の共有を図り、教育相談機能の強化を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>学校生活全般について</p> <p>「学校に行くのが楽しい」という問に対する生徒の肯定的回答は 86%であり、昨年度より 4%増えた。「この学校にはほかの学校にない特色がある」「入学してよかった」に対し肯定的回答がそれぞれ 93%・82%(昨年度 94%・80%)であり、多数の生徒が学校生活や本校の特色を肯定的に受けとめてくれている。さらなる改善をめざす。</p> <p>授業全般、及び、家庭学習について</p> <p>「私は授業の準備(宿題・予習・復習)をしている」に対する肯定的回答は 61%(昨年度 56%)と低く、家庭学習や授業準備のための時間をしっかりと確保することが課題であると考えており、今後、わかりやすく質の高い授業づくり、家庭との連携等を一層推進する。</p>	<p>第1回 6月27日(金)9時30分～11時</p> <p>平成26年度に重点を置く取組みについて協議した。○SSHの研究指定が終了した場合も研究発表会充実等可能な取組みを続けるべき。先進的取組の継続を。○両学科の交流する機会を増やすよう取り組んでほしい。○著作権やインターネット等の使い方についての理解の促進を。○サマースクール等地域連携に引き続き取り組んでほしい。</p> <p>第2回 10月30日(木)9時30分～11時</p> <p>取組みの進捗状況について協議した。○授業研究・ICT機器を活用した取組みは進んでいる。○授業見学会における保護者の授業評価向上。○遅刻数減少し、体育祭・文化祭参加者増加及び評価向上。○家庭学習時間向上を。○自己肯定感の向上を。</p> <p>第3回 2月12日(木)14時30分～16時</p> <p>26年度の取組結果について学校教育自己診断等により説明。○学習が社会で活かされるように。○教科を越えての共同研究を。○年度毎で取組に重点を置きその評価を。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
学びの切磋琢磨	<p>(1) 両学科の指導方法を活用し全生徒が文・理両方の基礎学力を身につける。 ア全生徒の学力底上げ。 イ自学自習習慣を身につけ効率と効果を高める指導方法を工夫改善。</p> <p>(2) 専門分野における探究力を高め言語活用力やプレゼンテーション能力・語学力向上。 ア専門分野における探究力向上。 イ全ての教科指導のレベルの底上げ。 ウ言語活用力やプレゼンテーション能力・語学力向上。</p>	<p>(1) 企画調整会議が関係組織と連携し推進。 ア全ての生徒の学力の底上げを図る。 基本となる指導方法について、教科において統一・共有化を進める。 双方向的学習に努め、実験・実習等を多く取り入れる、ICT・VOD・視聴覚機器を活用。 イ生徒が自学自習習慣を身につけるとともに効率と効果を高めるよう指導方法を工夫改善。 宿題や課題の質を高め、タブレット端末を利用し学べるコンテンツの研究開発。</p> <p>(2) 企画調整会議内に課題研究(「探究」「科学探究」)言語活用力等を高めるワーキンググループ設置。 ア専門分野における探究力を高める。 課題研究の指導プログラムの研究開発。 外部人材との連携、評価・助言を受ける。 イ全ての教科指導のレベルの底上げを図る。 双方向的学習、実験・実習、ICT・VOD・視聴覚機器を活用。 ウ両学科とも言語活用力やプレゼンテーション能力・語学力を向上させる。 校外研修、国際教育、国際交流等推進。 生徒の様々な形態のプレゼンテーション実施。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 指導方法の統一・共有化についてアンケートで検証。(新規) ICT機器活用についてアンケートにより検証。 前年度比10%増(昨年78%) 「授業で学力をつけることができる」85%(昨年77%) 課題研究プログラム作成。 『探究』は役立つ」80%(昨年75%) 外部人材からの評価。 授業研究ワーキング設置し、5回研究授業実施。 校外研修等満足度70%(新規) TOEFLスコア目標 80点以上6人(昨年3人) 60点以上15人(昨年13人) 45点以上40人(昨年35人) 海外研修4回実施。 校外プレゼンテーション参加数30人以上 	<ul style="list-style-type: none"> 「学校の教育活動について教職員で日頃から話合っている」68.5% 今後80%を目標に取り組む。(新規) ICT機器活用についてアンケートにより検証。 活用度78%。全教員にタブレット端末を配付するとともに資料等配信システムを改善させ、数値向上をめざす。(△) 「授業で力をつけることができる」77%。昨年度と同水準にとどまった。ICT機器の効果的活用、授業研究等により数値向上をめざす。(△) 課題研究プログラム作成。(○) 『探究』役立つ」75%。研究指定活用し改善。(△) 学校協議会、SSH運営指導委員会より概ね良好との評価を得た。(○) 授業研究ワーキング設置し5回研究授業実施。(○) 海外研修満足度95%、校内研修満足度80%(◎) TOEFLスコア(△) 80点以上1人(昨年3人)60点以上7人(昨年13人) 45点以上9人(昨年35人) 昨年と比べ1年受験者増のため。次年度より受験者枠を固定する。 海外研修4回実施。(○) 校外プレゼンテーション参加数30人以上。総合科学科20人以上、国際文化科10人以上。グローバルインキャンパス3名参加。(○)
高い志・豊かな感性・互いを尊重、健康と体力育む	<p>ア高い目標、相互の協力・努力の大切さについて学ぶ。 イ違いを認め共に生きる力、紛争を解決する力の向上、自他を大切に思い社会に役立つとする気もち育成。</p>	<p>(1) 学年・教務部・進路指導部・国際科学教育部が連携し年間計画策定し取り組む。 ア高い目標を掲げ取り組むとともに、相互に協力・努力することの大切さについて学べるよう指導。 普段の授業、ホームルーム、生徒会やクラブ等の自主活動、行事等において、また、探究力育成の指導等、全ての活動において取り組む。</p> <p>(2) 学年・人権教育推進委・生指部・保健部・生徒会・国際・科学教育部が連携し取り組む。 イ違いを認め共に生きる力、社会に役立つとする気もちを育む。 HRや人権学習等において計画的に指導。 各界専門家講演、卒業生との連携協力推進。 ICT機器・情報端末等を正しく活用できるよう計画的に指導。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断(生徒)アンケート 「将来の進路や生き方について考える機会がある」82% (昨年80%) 「家庭学習時間を確保できている」70% (昨年54%) 人権生活意識調査結果により検証。(新規) 学校教育自己診断(保護者)アンケート 「将来の進路や生き方について考える機会がある」90% (昨年81%) 	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断(生徒)アンケート 「将来の進路や生き方について考える機会がある」82%。向上しつつある。研究指定等を活用し、今後引き続き数値向上に取り組む。(○) 「家庭学習時間を確保できている」60%。向上しつつある。今後さらなる改善に取り組む。(○) 人権問題への関心度(非常に+まあまあ)45%(人権生活意識調査)今後60%超に向け改善する。 学校教育自己診断(保護者)アンケート 「将来の進路や生き方について考える機会がある」82%。特に国際文化科における課題研究等を充実させ、数値の向上をめざす。(△)
全ての生徒の進路希望実現	<p>(1) 3年間を見通した総合的な指導計画策定し、教職員・保護者・生徒が共有。 (2) 知・徳・体のバランスの良い生徒の育成。</p>	<p>(1) 3年間を見通した総合的指導計画(学習指導・進路指導・生活指導等)を策定、教職員・保護者・生徒で共有し、指導・支援する。 ア生徒の学力の状況や、学校生活・進路・人権等に係る意識等について適宜的確に把握し、指導・支援の工夫改善を行う。 イ土曜日の補習・講習等計画的でニーズにあうよう実施、有効活用のため校内体制整備。</p> <p>(2) 知・徳・体のバランスの良い生徒を育てる。 ア部活動と勉強を両立させるよう計画的に指導。 教職員間の連携協力を強める。 イすべての学校生活において、生徒が連帯感・達成感を体得できるよう指導・支援、評価・顕彰。 ウ学校全体として、特に時間管理、挨拶の励行、整理整頓の指導にしっかりと取り組み、生徒が自己管理能力を高めるよう取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 3年間を見通した総合的指導計画・成果指標作成。 学校教育自己診断アンケート 「悩みや相談に応じてくれる」65%(昨年55%) 「学校に行くのが楽しい」90%(昨年84%) 「家庭学習する時間を確保できている」65%(昨年55%) 「授業で力をつけることができる」85%(昨年77%) (再掲) 	<ul style="list-style-type: none"> 効果的進学指導のための、3年間を見通した指導計画・成果指標を作成した。27年度には、進学に加え学校生活充実のための総合的指標作成に取り組む。(○) 学校教育自己診断アンケート「悩みや相談に応じてくれる」59%。向上しつつある。今後さらなる改善に取り組む。(○) 「学校に行くのが楽しい」86%。向上しつつある。今後、引き続き数値向上に取り組む。(○) 「家庭学習する時間を確保できている」60%。今後、引き続き数値向上に取り組む。(○) 「授業で力をつけることができる」77%。昨年度と同水準にとどまった。ICT機器の効果的活用、授業研究等により数値向上をめざす。(△)
教員の指導力の向上	<p>ア学習、進路、生活等指導方法の質を高め工夫改善。 イ教育相談機能の強化</p>	<p>ア学習、進路、生活あらゆる面における指導方法について質を高め、工夫改善を推進できるよう学年・分掌・教科間連携を強め校内体制整備。 イ生徒情報の共有を図り、教育相談機能の強化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業研究ワーキング設置し、5回研究授業実施。(研究授業回数を評価) 学校教育自己診断アンケート 「悩みや相談に応じてくれる」65%(昨年55%) 	<ul style="list-style-type: none"> 授業研究ワーキング設置し、5回研究授業実施した。また、研究授業における知見を共有する会議を実施した。今後さらにICT機器の効果的活用をめざす。(○) 学校教育自己診断アンケート「悩みや相談に応じてくれる」59%。向上しつつある。一層の改善をめざす。(○)